

～ シンガポール最大の旅行博「NATASトラベル2010」 ～

企画観光部



2月25日～28日、シンガポール最大の旅行博「NATASトラベル2010」が開催されました。

簡単にシンガポールという国をご紹介します。正式国名はシンガポール共和国といい、マレー半島南端付近のシンガポール島と周辺の島々を領土とする都市国家です。主に中国系、マレー系、インド系の他、様々な民族が住んでいて、近代的なビルが立ち並ぶ都市でもあります。

国の面積が東京23区程度と、比較的小さいこともあるせいか、シンガポール人の娯楽といえば、ショッピング、グルメ、そして旅行。とりわけ旅行は、当然ながら海外旅行となります。宿泊したホテルが、ショッピング街として名高いエリアだったせいもありますが、服飾、アクセサリ販売などのお店は大概22時位までオープンし、人々は煌びやかなネオンの中を行き交い、そして飲んで食べるという雰囲気とパワーで溢れています。



地下鉄を降り立つと、程なく会場となり、既に会場前にはオープンを待つものすごい数の行列です。

シンガポール人は旅行博「NATAS」で年間の旅行計画を立てる人が非常に多いです。このNATASにはシンガポール中の多くの旅行会社が出展し、通常、お店の窓口で旅行を申し込むよりも割安な料金で契約することができます。また、このNATASには入場料が必要となってしまうのですが、それでも、旅行代金が割安なため、毎回大盛況となっています。

会場内では、お隣の韓国や中国、またオーストラリアやインドネシアなど、世界で有名なリゾート地を有する国が趣向をこらした内容でブースを展開し、アピールを行う中、我が日本のブースには多くの旅行者が訪れ（殺到という表現が正しいかも）人気ぶりが伺えました。

当局管内である北陸ブースでは、「立山黒部アルペンルート」の知名度が抜群で、ここを目当てに訪れる方が非常に多く感じました。雪が降ることのないシンガポールの人々には、特に「雪の大谷」が強烈なインパクトのようで、皆さん興味津々。パンフレットを片手に「どのようなルートでここに行くのか」「壁は何メートルあるのか」といった様々な質問が出ていました。中でも、「この雪の壁は崩れてこないの？」と不安げに質問する方がおられ、「ノープロブレム」と答えると安心した様子で帰っていきました。どうやら本気で心配されていたようです。



旅行博は連日 22 時まで開催され、夜になっても客足は途絶えることなく、盛況となっていました。



現在、2010 年までに訪日外国人旅行者数を 1,000 万人にするとの目標に向け、シンガポールを含む重点 12 市場を対象に、我が国の観光魅力を発信するとともに、日本への魅力的な旅行商品の造成を支援するビジット・ジャパン・キャンペーンを官民一体で推進しています。

今回のイベントでは、直接現地旅行者の皆様と触れ、「日本の美しい景色を見て、伝統文化に触れてみたい」という熱意を感じられ、非常に有意義なものでした。当局管内には、温泉や伝統文化、四季を通じた雄大な大自然など、魅力的な観光資源がたくさん存在します。今後の業務を通じ、外国人旅行者に様々な情報発信して、多くの方々に日本を訪れていただき、たくさんの魅力に触れていただければと願っております。